

スポーツ観光に係る意見聴取会議 議事概要

日 時：平成25年11月8日（金）15時30分～17時30分

■ 議事概要

（1）開会

- ・ 今回初めて「スポーツ観光」という切り口で、改めて京都府の観光、地域振興を考えていこうということで、今回、意見聴取会議を開催。
- ・ どのような戦略とするのが良いか、専門的な分野の皆さまのご意見をお聞きして参考とさせていただきたい。

（2）基調報告

- ・ カヌースラロームは、激流の川に閘門を設置しクリアしていく競技で、スタートからゴールまでの早さを競う。日本では東京や富山などの自然を利用したコースが有名だが、海外ではダムにコンクリートで川をつくる人工コースでの競技が主流になってきている。周囲には観客席があり、盛り上がる場所がつけられている。また、誰もがくつろげる公園の中にコースがつけられており、カヌーだけでなく、ランニングや自転車、インラインスケート等もできる。近くにはレストランがあり、クラブハウスでボルダリングができるなど、いろいろなスポーツが集まり楽しめる場所になっている。クラブチームもあり、子供たちもたくさん集まっており、未来へ繋がる環境がある。
- ・ ドイツなど中央ヨーロッパでは、一家に一台カヤックがあり、誰もが何かしら水辺でのスポーツに精通している。木津川も南丹市の川もカヌーを楽しむのに良いが、きっかけがない。そのきっかけをつくるだけで変わってくる。奥多摩ではカヌーや川下りをかなり産業に取り入れてきており、身近になっている。奥多摩は都心からも近く、山や川があり、テレビ等で取り上げられる観光地でもある。こうした要素はすべて京都にも揃っているので、きっかけさえあればできるはずだと感じている。
- ・ 海外では、堰の横の魚道等を使ってカヌーのコースがつけられていることが多いが、日本では単なる堰として、取水や治水等のためだけに利用されている。フランスなどでは各市町村に1つはある。
- ・ オーストリア・リエッツで開催される「レッドブル・ドロミテマン」という大会に、今年初めて日本チームが参加した。この大会は、エクストリームレースの一つで、マウンテンランニング、パラグライダー、カヤック、マウンテンバイクという異なる競技をバトンでつないでチームで戦う。京都府にも陸・海・空のすべてのフィールドが揃っており、エクストリームレースをやるのも面白いのではないか。京都にはブランド力があるので、海外からも選手を呼ぶことができる。

（3）事例調査報告

- ・ 京都府には地元の人にも知られていない資源がたくさんある。それを何らかの形で

利活用していくために、スポーツ観光という切り口で検討しようと考えている。専門家の方にご意見をお聞きし、国内においてスポーツ観光という切り口で検討するに値すると思われるものを資料2にまとめている。

- ・ スポーツ観光の成功例
 - ①全国各地で人気の「ウルトラマラソン」大会
 - ②新潟県佐渡市「佐渡国際トライアスロン大会」
- ・ TANTAN ロングライドの事例
- ・ 海外へのスポーツ観光展開の事例

(4) 意見交換

京都の資源・特性を踏まえた京都府にふさわしいスポーツ観光について (スポーツ観光の方向性)

- ・ 京都と観光がクロスできるような新しいスポーツを生み出していけば良いのではないか。「これから日本でこのスポーツをするのなら京都だ」となれば、ファンも集まる。
- ・ 今回の議論のそもそもの論点は、産業振興、地域振興であると考え。京都ブランドや地域の特色を十分に生かしながら、不特定多数の人たちが競技に限らず参加できるものをつくること。そのために新たなものをつくる、もしくは、もともとあるものを集めて仕組みをつくる。大きな大会を1つ開催するのも良いが、小さなものをたくさんやることも効果があるのではないか。
- ・ 地元が参画もするしサポートもする形にならないと持続可能性がない。持続可能な仕組みを考えていくことが必要である。
- ・ 産業化のためには、「〇〇の聖地をつくる」というのが良いだろう。ブランディングをかなりはっきりと打ち出す必要がある。マラソンだと既に世界五大マラソン大会のホノルルマラソンがあるので、これから京都が目立つのは難しい。マイナースポーツを集めるのも一つだ。このポジションであれば、京都も充分追いつき追い越すことができる。
- ・ リピートされる大会はレース後のコンテンツがあることも大切。その点からいうと、京都は条件に恵まれており、充分スポーツ観光が成立すると思う。
- ・ 府内観光+スポーツ、もしくはスポーツを中心にして、+府内観光。どちらを中心軸に置くか。スポーツ観光は他の自治体もスポーツコミッション(SC)形式で取り組み始めている。
- ・ スポーツ+観光はこれから伸びが非常に大きい。海外の成功事例も見ながら、京都らしいものをやっていくと良いものができるのではないか。

(スポーツ観光の展開種目について)

- ・ 「する」スポーツでは、マラソン、トライアスロン、ウォーキング等が人気。現在、いろいろな都市で様々なマラソン大会が開催されており、同じやるならば、京都でな

いと体験できない、尖りのあるマラソンにする方が良い。

- 京都でカヌースラロームに取り組んでいただき、素人でもできるような場、施設などもつくってもらえればと思う。スポーツをするには「きっかけ」が重要。子供の頃に覚えたスポーツは、趣味や競技として継続される。新しいスポーツを京都でするので、「継続」が大事になってくる。
- 食とランニングを組み合わせた「南魚沼グルメマラソン」という大会があり、魚沼産のコシヒカリが食べ放題で3,500人の参加枠だったが、メ切前に定員になった。これは地域の食のPRを兼ねており、非常に盛り上がっている。こういった大会を通じて丹後や山城地域の産品をPRしていくのもひとつの案だ。
- 京都縦貫自動車道が開通する際に、1回限りとはなるが、記念マラソンを開催してはどうか。新東名高速道路が開通する時にもマラソンが開催された。
- 京都から丹後に道が繋がったということをアピールする方法としては、この時にしかできないもの。サービスエリアが休憩ポイントとして良い位置にあるので、自転車で折り返してくるというレースも良いのではないか。
- 高速道路の開通に合わせて通行止めができるのであれば、丹後へ道が繋がったことを全国的にアピールできる。単発のものになるが、参加者が次は家族を連れて来るといった二次的な効果も期待できる。参加者へのPRの意味でもこのような大会を開催するのも良いのではないか。
- ある程度装置を使うスポーツが良い。聖地であれば、そのスポーツのためのお店が集積し、壊れた時に部品を買いにやってくる。これで産業化にも繋がる。以上のことから、トライアスロンが良いのではないかと考える。
- 亀岡にできる新スタジアムに隣接する国際サッカーセンターの設立を提案する。この施設はコートが複数面あり、クラブハウスも併設されているというイメージ。サッカーセンター設立により宿泊客と観光客の増加など、様々なメリットがある。

(まとめ)

- 京都を訪れる観光客に本当に満足していただける多様な観光を提案したい。そのための切り口として、スポーツがある。
- 裾野から広がるものにしたい。聖地も欲しいが、その場合、地域の人でも地元が聖地でよかったと思えるようにしたい。地域の方々の満足度が高いと、来ていただいた方の満足度も高くなる。このことを忘れずに取り組みたい。
- 地に足のついた取組とするには、息長くできる仕掛けをつくる必要がある。多くの人が参加し、Win-Winになれる仕組みをつくりたい。また、一つのスポーツが他のスポーツとも繋がってPRできるよう、情報のネットワークをうまく使って、それぞれに良い流れができるようにしたい。